平成 29 年度　全国学力・学習状況調査　箱根町立小・中学校の調査結果について

平成 29 年 4 月 18 日に実施された全国学力・学習状況調査の箱根町の結果をまとめました。

1　調査の目的（文部科学省より）

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

◇そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

2　調査の概要

箱根町では、4 校、130 人（町立小学校 62 人、町立中学校 68 人）の児童・生徒が参加した。

内　　訳：町立小学校 3 校全 6 年生、町立中学校 1 校全 3 年生

3　調査内容

（1）教科に関する調査（国語，算数・数学）

◆主として「知識」に関する問題（A）

＊身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

＊実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

◆主として「活用」に関する問題（B）

＊知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

＊様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

（2）児童生徒に対する調査

＊調査する学年の児童生徒を対象に，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

4　結果の概要

（1）教科に関する調査結果の分析内容について

◇小学校

【国語】

昨年度の調査結果からの課題は、①漢字を書くこと　②条件に合わせ、決められた字数で文章を書くこととその無回答率の高さ　の２点であった。今年度の状況から、①については、改善が見られたが、②については、大きな変化は見られなかった。なお、この領域の無回答率については、昨年度の本町を下回ったものの全国との比較では上回っていた。

Ａの調査では、「漢字を読む・書く」について、箱根ミニマムの結果との相関関係がはっきりと表れていた。中には、全国平均正答率を大きく上回る学校もあった。今後とも、各小学校での日常的な取組を期待したい。「好きな俳句を紹介する」問題では、表現の特徴や季節感を捉えることができていた。これは、今までの読書経験を踏まえ、想像豊かに読む力が身に付いていると考えられる。

Ｂの調査では、前述の「記述形式の問題」に苦手意識をもっている児童がまだ少なくないという課題が残った。とりわけ、説明的文章にそれが顕著に表れていた。文学的文章では、全国よりも良い結果を出していたので、説明的文章に特有の表現（引用・事実・意見など）に着目したり、複数の叙述を基に筆者の考えを捉えたり、さらには「や・し」などの助詞を使って二文を一文にしたりして限られた字数で文章を書く場面を取り入れていく学習が必要である。

◇小学校

【算数】

昨年度の調査結果からの課題は、①立体の面と面の位置関係を正しく理解すること　②示された場面を適切に読み取り、式で表すこと　の２点であった。今年度の状況から、①については、改善が見られるが、②については、大きな変化は見られなかった。

Ａの調査では、「計算の能力」をみる問題の、乗法で表すことができる２つの関係は、ほとんどの児童が理解していた。また、「四則計算」のうち、加法と乗法の混合した整数と少数の計算や商を分数で表す問題では、全国平均正答率を上回っていた。これは、箱根ミニマムでの取組の成果だと考えられる。しかし、「（３位数）×（２位数）」の乗法や「（小数）＋（整数）」の計算では、全国平均正答率を下回ったことから、前年度までに学習した内容の定着に課題が見られた。示された平行四辺形の面積の半分の面積である三角形を選ぶ問題では、三角形の面積は平行四辺形の面積の半分であることは理解しているが、高さは図形の内部にのみあるものと捉えているため、全国平均正答率を下回った。

Ｂの調査では、２つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する問題では、筋道を立てて説明することに課題がみられ、全国平均正答率を下回った。測定値から平均値を求める方法の理解は全国平均並みであるが、仮の平均の考えを活用して測定値の平均を求める問題では、問題を把握して、それを考察し的確に表現することに課題が見られた。

◇中学校

【国語】

昨年度の調査結果からの課題は、①答えの文章を読み返し、語句の使い方などに注意して書くこと。②自分で材料を集め、まとめ、自分の考えを書いたりすることであった。今年度の状況では、①については改善が見られたが、②については今年度も大きな変化が見られなかった。

Ａの調査では、全体的に概ね全国平均正答率と同程度であった。「文脈に即して漢字を読む、書く」問題は昨年同様良好である。小学校の配当漢字を中心に出題されていることから、引き続き箱根ミニマムへの日常の取組と国語の時間に限らず習得した漢字を使って文章を書くことを大切にしたい。語句の意味を理解し、文脈の中で適切な語句を選択する問題については全国平均正答率を上回っているが、相手に分かりやすいように語句を工夫して話したり、事象や行為などを表す多様な語句を記述したりする問題では下回っている。このことから、語彙を豊かにする指導が必要である。なお、古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える古典の問題については昨年に引き続き課題が見られた。また、書写の問題では、全国平均正答率と同じように低い結果であった。漢字を構成する『点画』などの用語が理解できていないのではないかと思われる。

Ｂ の調査では、場面の展開や登場人物などの言動の意味や描写に注意して読み、内容を理解することは出来ているが、感じたことや考えたことについて根拠を明確にして、字数などの条件を満たして書くことに課題が見られた。普段から伝えたい事柄や自分の考えを整理して、文章にする学習が必要である。

◇中学校

【数学】

昨年度の調査結果からの課題は、①数学用語を正しく理解すること　②問題解決に向け見通しを立てて考えること　の２点であった。今年度の状況から、①については、領域によっては改善された部分も見られるが、②については、大きな変化は見られなかった。

Ａの調査では、「基本的な計算」は高い正答率を示し、全国平均正答率並みであるが、分数の混ざった連立方程式での解法が十分でなかった。図形領域では、平面図形での錯角、空間図形での辺と面との平行の意味が十分理解できず、正答率は低かったが、他の用語の理解は、全国平均正答率並みである。関数領域では、比例や一次関数の式を求める問題では、基本的な内容を理解し、全国平均正答率を上回ったが、関数の意味を理解したり、表から関数関係を見いだしたりする問題に、無回答が多かった。資料の活用領域では、資料の範囲、相対度数、確率の意味や求め方の理解が不正確であり、全国平均正答率を下回った。

Ｂの調査では、資料を整理して情報を読み取る問題では、目的に応じて資料の傾向を判断することができ、全国平均正答率を上回った。記述式の問題では、正答率が低く無回答が多いことから、「道筋を立てて考え、証明したり説明したりする」「問題を把握し、考察し、的確に処理する」ことが課題とみられる。

（２）児童生徒に対する質問紙調査結果の分析内容について

【小学生の質問回答より】

○　学校の授業時間以外における 1 日当たりの学習時間について、昨年度の本町の状況と比べ 2 時間以上勉強する児童の割合が増加した。また、家で、自分で計画を立てて勉強している児童も増加し、各小学校の指導が改善につながったと考えられる。

○　3 割以上の児童が、学校の授業時間以外に、毎日 30 分以上読書をしている。これは、昨年度の状況と比較して下回ってしまったが、「読書が好き」と回答した児童が 5 割以上おり、全国を上回っている。隙間時間に読み聞かせを行うなど、工夫した取組の効果が見られる。

○　約 4 割の児童が、地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。さらに、8 割以上の児童が、地域行事に参加していると回答している。本町の児童は、地域との関わりを深めながら成長している。

○　授業では、自分の考えを発表したり、学級の友達との間で話し合ったりする学習活動の充実が求められる。一方、自分の考えがわかるように書く学習については、改善が見られた。

【中学生の質問回答より】

○　学校の授業時間以外における 1 日当たりの学習時間について、1 時間以上勉強をしている生徒の割合は、昨年度の本町の状況よりもさらに改善が見られる。家で計画を立てて、学校の授業の予習、復習を行う生徒の割合が増えている。

○　4 割近くの生徒が毎日 30 分以上読書をすると回答しており、全国を大きく上回っている。「読書は好きだ」と答えており、読書時間を楽しもうとする生徒が多い。

○　7 割近くの生徒に、地域や社会で起こっている出来事について関心の高まりが見られる。さらに、6 割以上の生徒が「地域行事へ参加している」また、「地域社会などでボランティア活動に参加したことのある」と回答している。全国と比較しても、地域とのつながりがある生徒の割合が高い。

○　授業では、「生徒間で話し合う活動をよく行っていた」や、「自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒の割合が高かった。授業の目標を明確にし、学習内容を振り返る活動の実施の割合についても全国を大きく上回り、学習活動に見通しを持って、主体的に取り組む姿が定着してきたと考える。